学習指導案（視聴覚教材）

１．単元名　「司法の仕組みと働き」

２．単元の目標

○法に基づく公正な裁判によって、国民の権利が守られていることを理解することができる。

○裁判官・検察官・弁護人の役割、裁判員制度の背景や仕組みについて理解することができる。

○模擬裁判の事例について、事実や証拠関係について多面的・多角的に考察し、判断することができる。

○我が国の司法制度が抱える課題を追究し、公平・公正な裁判のあり方について考察することができる。

○我が国の司法制度について、その課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする。

３．単元の評価規準

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| ・法に基づく公正な裁判によって、国民の権利が守られていることを理解している。  ・裁判官・検察官・弁護人の役割、裁判員制度の背景や仕組みについて理解している。 | ・模擬裁判の事例について、事実や証拠関係について多面的・多角的に考察し、個人でのワークシートへの記述や振り返り、グループでの発表に活用している。  ・我が国の司法制度が抱える課題を調べ、公平・公正な裁判のあり方について考察することができる。 | ・模擬裁判や調べ学習などを通して、我が国の司法制度への関心をもち、そこで見られる諸課題の解決を視野に主体的に追究しようとしている。 |

４．単元の構成（案）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| １時 | 司法権の意義 | 「憲法の番人」という意味を考察し、司法権が私たちの人権を守る上で重要な役割を果たしていることを理解する。 |
| ２時 | こんな時どうする？ | お金の貸し借りなど、民事で争われる身近なトラブルを例に、紛争解決手段として「裁判」があることを理解する。 |
| ３時  （本時） | 模擬裁判をやってみよう | 模擬裁判を体験し、刑事裁判の概要や裁判官・検察官・弁護人の役割、有罪・無罪がどのように判断されるのかを理解する。 |
| ４時 | 国民の司法参加 | 国民の司法参加が求められるようになった背景とその意義について考察し、裁判員制度の仕組みについて理解する。 |
| ５時  ６時 | 我が国の司法の課題 | 我が国の司法制度が抱える課題を追究し、公平・公正な裁判のあり方を考察する。 |

５．本時の目標

○事実や証拠関係について整理しながら、多面的・多角的に考察し、結論を導くことができる。

（思考・判断・表現）

６．本時の流れ

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 進行 | 〇学習内容・活動 | ◆指導上の留意点 |
| 導入  （２分） | ◯本時の学習への動機づけ  本時の問い　　有罪か無罪かはどのように判断されるのだろう？ | ◆生徒の実態に合わせて学習への動機づけと  なる導入を行う。  「裁判」へのイメージを問い掛ける  日本や外国の印象的な裁判事例を提示する  身近な地域にある裁判所の写真を見せる  　　　　　　　　　　　　　　　　　　など |
|  | ○本時の目標の確認  ・本時の目標「事実や証拠関係について様々な面から考え、個人・グループで結論を導こう」を把握する。 |  |
| 展開  （38分） | ◯刑事裁判の概要、重要なルール  ・動画を視聴し、刑事裁判の概要や重要なルール、証拠調べ手続の流れを確認する。  ◯事件概要・証拠関係の把握  ・動画を視聴し、事件の概要や証拠関係を確認する。  ◯評議  ・検察官と弁護人、被告人の主張を踏まえ、各事実について個人で評価し、有罪か無罪かをワークシートに記述する。（８分）  ・争点や証拠関係を整理し、本事案の被告人が有罪か無罪か、グループで考える。（10分）  ・グループとしてどのような結論に至ったか根拠や理由とともに発表する。  （７分） | ◆動画を流し、刑事裁判の概要や重要なルール（無罪推定の原則、証拠裁判主義）、証拠調べ手続の流れを捉えさせる。  　チャプター１（刑事裁判）  　チャプター３（刑事裁判の重要なルール）  　チャプター６（証拠調べ手続）  ◆動画を流し、事件の概要や証拠関係を捉えさせる。  チャプター７（冒頭陳述）  チャプター８（証拠の取調べ）  チャプター９（被告人質問）  ◆検察官と弁護人、被告人の主張を踏まえ、各事実について個人で評価し、有罪か無罪かをワークシートに記述させる。各事実への評価及び結論を判断する際は、必ず根拠や理由を明確にするよう指導する。  ◆４〜６人のグループを構成し、個人としてどのような判断をしたか、根拠や理由とともに話し合わせる。その上で、グループとしての結論を判断させる。  ◆有罪・無罪どちらかの結論が正解ではないということを伝えた上で、グループとしてどのような結論に至ったか根拠や理由とともに発表させる。発表形式は、ホワイトボードやタブレット端末など生徒や学習環境の実態に合わせて選択する。 |
| まとめ  （１０分） | ◯振り返り  ・本時の振り返りをワークシートに記述する。（５分）  ◯「裁判官」からのメッセージ  ・「裁判官」からのメッセージの動画を視聴する。 | ◆本時の学習の振り返りについて、ワークシートに記述させる。  　評価  　Ｂ評価  事実や証拠関係について考察し、根拠や理由を明確にして結論を導いている。  ◆まとめとして、「裁判官」からのメッセー  ジを視聴させる。視聴させるメッセージに  関しては、時間配分や、学習の実態に合わ  せて、「検察官」「弁護人」のいずれかを  選択しても良い。 |